

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちがまともな社会生活を送るうえで、道德の^{*1}遵守は欠かせない。最近^{さいじん}は道德の劣化^{れっか}がよく話題に上り、小学校の学習指導要領にも道德教育の重要性が明記されるようになった。だが、人間にとって生きるために必要な道德は、学校で学ばなければ会得^{えとく}できないものだろうか。私たち人間の世界には「黄金律」と呼ばれる倫理^{りんり}がある。「他人にしてもらいたいと思うような行為^{こうい}をせよ」という行動基準で、世界のどこでも、あらゆる民族や宗教に見られる基本的な道德といつていいだろう。①これは人間以外の動物には見られない。動物には仲間と自分との間で何が違っているかという状況判断や、仲間が自分に何をしてほしいかという気持ちを推し量る能力が欠落していると思われるからだ。

A、動物たちは本当に仲間の気持ちが変わらないのだろうか。1950年代、1960年代にアメリカで行なわれた実験がある。ラット(ドブネズミの一種)を、レバーを押すと餌^{えさ}がもらえるように訓練した。次に、2頭のラットを別々のケージに入れ、一方のラットがレバーを押して餌を取ると、もう1頭のラットには電気ショックが与えられるようにした。すると、ショックを与えられて仲間が跳ね回る姿を目撃したラットは、それ以上レバーを押すのを止めた。同じ実験をアカゲザルで行なうと、何と12日間も飢え死にする寸前まで餌を取ることを拒み続けたサルがいたという。ラットやサルにも仲間の苦しむ姿を見たくない、自分がその原因になりたくないという気持ちがあるのだ。

1992年に、イタリアの研究チームがサルの脳にミラーニューロンと呼ばれる特別な細胞^{さいぼう}があることを発見した。この細胞は、サルは自分が何かしているときだけでなく、仲間のサルがするのを見たときにも発火する。つまり、サルは仲間の行為を目撃することによって、あたかも自分がするように感じるのである。サルにも共感能力があるのだ。でも、長年チンパンジーの研究を続けてきたオランダ生まれのフランス・ドゥ・ヴァールは、共感と同情は違うという。共感とは、他者についての情報を集めてそれを他者と同じように感じるプロセスだ。同情は、さらに他者に対する気遣いと、他者の境遇^{きようぐう}を改善したいという願望を反映する。そして、サルには共感する能力はあるが、同情する能力が希薄^{きはく}だという。同情には、相手の置かれている苦境を理解する認知能力と、相手を助きたいという気持ちが必要だからである。

典型的な例がアフリカのオカバンゴという大湿地帯^{しづげん}に棲む^すヒヒで報告されている。ここは乾季の間は乾いた草原だが、雨季になると遠くで降った雨が川となつて流れ込み、大きな湿原となる。ヒヒは泳ぐことができるので、ライオンなどの肉食動物に襲^{おそ}われた

ら、水に飛び込んで逃げる。でも、赤ちゃんを腹に抱えたヒヒの母親は、そのまま水に飛び込むので、赤ちゃんがおぼれ死んでしまうことがよくある。ヒヒは自分ができることが赤ちゃんにはできないと理解する能力が欠けているせいだという。

*2類人猿^{るいじんえん}にはこの能力がある。オランウータン、ゴリラ、チンパンジーは、まだ立ちよち歩きの赤ちゃんが階段から落ちそうになると、事前に手を伸ばして支える。ヘビなど危険なものに近づこうとすると、あわてて赤ちゃんを引き戻^{もど}す。明らかに、赤ちゃんには自分と同じ能力がないことを知っているのだ。チンパンジーは傷ついた仲間に近づいて、抱きしめたり、傷をなめたりすることがよくある。おとなに攻撃されてうずくまっている子どもに、別の子どもが手を伸ばして抱きかかえることもある。また、ゴリラは仲間どうしのけんかに介入^{かいにゅう}して、両者をなだめ、傷ついたゴリラに顔を近づけることがある。これは仲間を慰める行為だと見なされている。とくに、けんかに直接関わっていない第三者が仲裁し、慰めるのは類人猿にしか見られない。類人猿は、自分が関わることによつて状況が変わり、苦境にある仲間の気持ちが和らぐことを知っているのだ。

(中 略)

人間は他の種の動物を助けることにとても熱心である。巢から落ちてもがいているひな鳥や、羽が折れて飛べなくなった鳥たちを見つけると、大事に保護して餌をやり、飛べるようになるまで面倒を見る。傷ついたキツネやタヌキを見つけると、たとえそれが人間に害をなす動物であっても保護して治してやろうとする。こういった同情の能力があるからこそ、人間はペットを飼ったり、家畜の世話をしたりできるのである。それは、ゴリラやチンパンジーが持つ能力を人間が大幅に拡大できたからに違いない。

人間は共感や同情の対象を他の種に広げただけでなく、仲間に対してそれを強めたことに特徴がある。それは自己犠牲^{ぎせい}の精神に反映している。危機にある仲間を救うために自分のいのちを懸ける。B 自分^{自分}の子どもや近親者だけでなく、血縁関係のない赤の他人さえ身を賭して助けようとする。この行為こそ人間の社会力を強め、これまで地球上の新しい環境に進出するたびに危機を乗り越えてきた原動力といえる。

②動物たちから見たらとんでもない行為が、なぜ人間の^{*3}美德となったのか。19世紀に進化論を唱えたチャールズ・ダーウィンも、この自己犠牲的な行動の進化的な解釈に困惑^{こんわく}している。自然選択を経て残るのに必要なのは、自分の遺伝子を受け継ぐ子孫をたくさん残す行動である。死んでしまったら子孫を残せない。近親者を助ければ自分の遺伝子が少しは子孫に伝わるが、見ず知らずの他人を助けて死んでしまえば遺伝子は残せない。③どうしてそんな行動が人間だけに残ってきたのか。それを動物に共通する社会本

能としてダーウインは解釈した。動物にも自分が心地よく暮らすために仲間を助けたいという心の働きがある。それを人間は言葉によって意味づけ、他者の行ないや自分の過去の経験と比べてその是非を判断するような良心を発達させたのである。しかし、自己犠牲の精神は言葉の登場以前に確立されていたと私は思う。人類が類人猿の棲めない草原へ足を踏み入れたのも、アフリカ大陸を出て多様な環境へ進出したのも、まだ言葉をしゃべっていない時代だった。自己犠牲は道徳というより、美徳と呼ぶにふさわしい行為であると私は思う。

人間には顔を赤らめるという性質がある。これは周囲や自分の期待と反することをしでかしたときに起こる現象だ。生理現象だから意図的に止めることはできない。肌の色に関係なく、人間は誰でも赤面する性質を持っているが、類人猿にはない。だから、赤面は人間の祖先が独自の進化の道で身につけた特徴である。人間は仲間が自分をどう評価しているかを常に気にかけ、それに反するような行為を控えようとする傾向がある。その行動基準が道徳になる。道徳には文化によってさまざまな違いがあり、そのルールに違反した場合の罰則もさまざま。罰則ができる前の、恥を感じて赤面する気持ちこそが、どこの人間にも共通の自然の道徳といえるだろう。

進化は*4 利己的だとは誤解で、じつは*5 利他的であると私は思う。おそらく、自己犠牲の精神は人間が共同の育児をするようになったところに、血縁以外の子どもたちに手厚い保護の手を差し伸べるようになって発達し始めたのだらうと思う。文化の壁を超えて、子どもに救いの手を差し伸べない者は恥つさらしの汚名を着せられる。その習慣がやがて子ども以外にも、さらには別の種の動物たちにも向けられるようになったのだ。人間は共感と同情を基調にした利他的な社会力を強め、それを道徳として社会の規模を拡大したのである。

しかし、道徳が通用する範囲はいまだに共同体の内部に限られている。国や民族や宗教の境界を超えてはあまり働かない。それが、戦争の世紀を終わらすことのできない私たちの課題である。しかも、人間の共感と認知の能力は同情へ向かうだけでなく、利他など吹き飛ばして正反対の相手をだましたり、その苦境を喜んだりすることにも使われている。他者の気持ちや置かれている状況がわかる故に、いじめやDVが発現するのだ。SNSの出現でその*6 ネガティブな影響力が一層増している。④*7 グローバルな時代の道徳のあり方をその原点に帰って考え直さねばならない時代なのである。

（山極寿一「森の声、ゴリラの目 人類の本質を未来へつなぐ」より）

注 *1 遵守 法律・道徳・道理などにしたがい、それを守ること。

*2 類人猿 霊長目ヒト上科シウジョウ科の猿の総称。ヒトを除くと動物のうち最も知能が高い。

*3 美徳 うつくしい徳性。道徳にかなった立派な行ない。また、よい心。

*4 利己的 自分の利益だけを中心に考え、他人の立場などを考えないで行動するさま。

*5 利他的 自分を犠牲にして他人の幸福・利益のために尽くすさま。

*6 ネガティブ 否定的な、悪い、消極的なといった意味を持つ形容詞。

*7 グローバル 世界的な規模であるさま・全世界にわたるさま。

問一 傍線部①「これ」が指し示している内容を、本文中から三十字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問二 本文中の空欄A・Bに入る適切な語を次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ しかし ウ ところで エ または オ しかも カ なぜなら

問三 「ラット・サル・ヒヒ」のグループと「オランウータン、ゴリラ、チンパンジー」のグループとは、仲間への対応能力について違いがあると筆者は述べている。このことについて三人の児童が話をしている。㉠・㉡に当てはまる内容を、それぞれ十五字以上、二十字以内で答えなさい。また、㉢に当てはまる最も適切なものを後のの中から選び、記号で答えなさい。

- Aさん 「動物の中にも、人間と同じように仲間の気持ちに分かる動物もいるんだね。」
Bさん 「おどろ驚いたね。ラットも仲間の苦しむ姿を見たくないなんて不思議だな。サルも仲間の行為を目撃したら、あたかも自分がされているように感じるということも初めて知ったよ。サルにも、【㉠】があるなんてね。」
Cさん 「でも、サルの仲間であるヒヒは、自分の赤ちゃんが危険な目に遭あつていいることは分かるのに、赤ちゃんが泳げないことや、どうやって助けてあげればいいかが分からないんだね。」
Aさん 「そこが、サルと類人猿が違うところなんだよ。類人猿は【㉡】に加えて、自分ではできるけれど、他者にはできないことがあると理解して、【㉢】も備わっているんだって。」
Cさん 「なるほど。じゃあ、もし類人猿が、このヒヒと同じ場面に遭遇そうぐうしていたら、きっと【㉣】はずだね。」

【㉣の選択肢】

- ア ライオンが泳げないことを理解して、心を落ち着かせて川の中へ飛び込む
イ 赤ちゃんが泳げないことを理解して、溺おぼれないような工夫をしつつ逃げる
ウ ライオンが泳げないことを理解して、赤ちゃんを先に川の中へ避難させる
エ 赤ちゃんが泳げないことを理解して、赤ちゃんが怖がらないように逃げる

問四 傍線部②「動物たちから見たらとんでもない行為」について、次の各問いに答えなさい。

- (1) これはどのような行動か。本文中から八字で抜き出して答えなさい。
(2) この行為は人間のどのような特徴もとに基づいているのか。三十字以内で答えなさい。

問五 傍線部③「どうしてそんな行動が人間だけに残ってきたのか」とあるが、この問いに対しての筆者の考えとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自然選択を経て、自分の遺伝子を受け継ぐ子孫をできる限りたくさん残すため。
イ 言葉よって心の働きを意味づけし、物事の是非を判断する良心を発達させたため。
ウ 祖先が独自の進化の道で、類人猿にはない赤面するという生理現象を得たため。
エ 仲間の自分への評価を常に気にして、それに反する行為を恥とする美德があるため。

問六 傍線部④「グローバルな時代の道徳のあり方をその原点に帰って考え直さねばならない時代なのである」とあるが、筆者はグローバルな時代におけるどのような状況を心配しているのか。それを説明した次の文章の空欄A・Bに入る言葉をそれぞれ三十字以内で答えなさい。ただし、空欄Aには、本文中から抜き出して答えること。

世界規模で人間の交流が可能となっているが、（ A ）
それだけでなく、（ B ）
ことにも使われている。筆者はこのような状況を心配している。

【二】次の文章は、一九九〇年代に夏休みを迎えた少年たちの体験を描いたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

ぼくと泰くんは、夏休みのはじめ、*₁四万十川にしばらく通った。

学校のプールは七月のはじめに完成し、体育の授業で何度か泳ぎもした。入水前のシャワーが何となく「都会的」で、「テレビ的」で、ぼくらは「ひやいぜよっ。」とさけんでははしやいだ。けれど、プールというのが、あんがいつまらないことにも気がついた。

①ただの水の箱だった。

遊ぶなら、川の方がおもしろかった。とりあえずは、四万十川に行き、町じゅうのこどもと夏休みをよろこびあいたかった。今日も入道雲はわき、空は爆発的に晴れていた。

四万十川の水泳場は、赤鉄橋の下ときまっていた。タオルを首にひっかけ、水中眼鏡を持って川原におりる。炎天下の川原は、まぶしく目もくらみそうだ。白いくり石が強烈な夏の太陽をはねかえしている。足もとからも熱気が立ちのぼった。水の流れまではずいぶん距離がある。*₂日射病にでもなりそうだった。おまけに、水泳パンツの上に半ズボンをはいているから、暑くてきゅうくつだった。ぼくらはむれてくる股ぐらを気にしながら、くり石の上をバランスをとりつつ歩いた。

川幅は広い。流れの中に鉄橋の橋脚がある。コンクリートでできたもので、ちよつとしたビルぐらいに大きかった。水面の反射光が、コンクリートの壁にしま模様をつくってゆらめいていた。二段のテラスがあり、下のテラスがいちばん広く、こどもなら数十人がらくに休むことができる。ここから、とのさまバッタのように、つぎからつぎへとこどもがとびこんだ。上のテラスには、アルバイトの監視人がいて、たいていは監視もせずにねそべっていた。この橋脚を、ぼくらはピーヤと呼んでいた。

②四万十川で遊ぶ少年なら、必ず挑戦すべきことがある。ピーヤの底には、水中トンネルがあった。コンクリートの土台に、どういうわけか穴があいていて、こどもひとりなら、なんとかくぐれるようになっていた。穴の側面には、ひんまがつた鉄棒が何本かむきだしになっている。水泳パンツがひっかかることもあり、おそろしく危険なトンネルだった。だからこそ、僕らは挑戦した。ふつう五年生ぐらいからぬけられるようになる。一度自信をつけると、あんがいかんたんにぬけられる。つまりは、度胸だめしだった。

このトンネルをぬけるときは、水中眼鏡がいる。川岸に生えているよもぎをつぶし、その汁をガラス面ぬりつけるとくもり止めになった。よもぎ独特のにおいがふんとする水中眼鏡をつけ、大きく呼吸してピーヤのテラスからしずみこむ。まずは二メートルほど

の川底までもぐらねばならない。流れがあるために、やや川上からもぐる。水中トンネルの入り口は、水の浸食によって広がっていた。安心してはいけない。穴は奥に向かって急にせまくなる。小さなうずさえまいている。人間に気づいた川えびが、ハサミをあげてにらみつけてくる。コンクリートの壁にはりついてたゴリという小魚が、あわてていつとにげていく。緑色の川底は、このまま眠ってしまったほどきれいだ。ななめ上からは、太陽光線がさしこみ、ときどきだれかとびこむ音が聞こえてきたりする。水底のくり石には、ビーズよりも小さな、空気のつぶつぶがついている。それがときどき連らなって、きらきらと上にあがっていったりした。

見とれていては肺の酸素もなくなってしまうから、まようことなく穴につつこんでいく。両手をコンクリートの内壁にあてて、それを推進力に利用する。気をつけないと、むきだしの鉄棒に、水泳パンツがひっかかる。脇腹をさかれることだってある。このあたりで、息を少しはく。

A 二酸化炭素で、肺が苦しくなっていたのが、ちよつとらしくになる。そのぶん酸素もへるわけだから、急がねばならない。穴の中にはたくさんの川えびがいた。手長えびは、体の倍ほど手が長い。ハサミをふりあげて、人間をおどす。ぼくらはポパイと呼ぶえびは、片ほうの手だけがものすごく大きかった。そんなやつらが、うす暗がりによくうよよといった。

水中トンネルのむこうでは、緑の光が天国への入り口のようにゆらめいている。急がねば。酸素欠乏で、手足がしびれてくる。かなり苦しい。

B 最後の息をはくと、両手を出口のコンクリートにかけ、一気に外へとびだす。その力を、浮上の推進力にも利用する。息がもうギリギリで、肺がいたい。顔がはれている感じがしてくる。水面のいつそう明るいきらめきが目にとびこむ。一秒でもはやく息をすおうと、ひよつとこのような顔をして、水面にとびだす！

四万十川のにおいのする酸素が、一気に肺を満たしてくれる。C はっはつと息が切れているけれど、わけもなくうれしくなる。ピーヤのコンクリートをつたって、表にもどってくる。そこは、にぎやかな歓声と水しぶきのあがるピーヤの表側だ。どういうわけか、気持ちがいやわらかくなる。長い旅から帰ってきたような気分だった。水中トンネルをもぐるのは一日一度でじゅうぶんだった。D もちろん六年生になっても、まだくぐれないものが何人もいた。しかし、ぼくらはそれをばかにしなかった。それほど危険な遊びだったのだ。

まだくぐりぬけられない一人が、材木屋の洋一だった。四万十川には小さなころからきていたが、二人の姉さんといつもいっしょで、ぼくらのように乱暴な水遊びはしていなかった。けれども、姉さんたちも水泳にはこなくなった。ぼくらはまったく理由がわ

からなかったが、六年生から中学生になるころ、女の子たちは川泳ぎにふつりとこなくなるのだ。だから洋一は、去年あたりから、ぼくらにまじって泳ぐようになった。ぼくらの乱暴な訓練に、去年は何度も泣いていた。

たとえば、こんなことがあった。岸からピーヤまで洋一はうきぶくろでやってくる。テラスにあがって、一休みしてるところを、ぼくらの一人がうきぶくろをとりあげた。

「岸まで泳がんと、帰れんぜよ。」

とからかい半分ではげます。

それはぼくらがむかしに兄や年上の連中から、何度もやられた特訓とくくんであつた。みんなは一度はその恐怖きょうふから涙を流したのだ。どんなにたのんでも、兄たちはうきぶくろをかえしてくれなかった。しかたなく、おそろしさにはりさけそうになった心臓で、水にとびこんでいく。死にものぐるいで泳いだ。水を何度も飲み、涙と川水で顔がくしゃくしゃになるころ、ふしぎにも足の立つところまできているのだつた。兄たちが、やんやのかつさいをあげている。ぼくはもう二度とピーヤまで行くもんかと思いつつも、テラスにいる兄たちにはんざいをしてみせた。そしてまた、ピーヤにむかつて体が動きはじめるのだつた。そんな危険な特訓を水泳監視員はだまって見守っていた。

洋一は、五年生になって、その特訓をうけることになった。テラスの上で、顔を青くして、首を何度もふつては、「いかんちゃ。で きんちゃ。」をくりかえした。きちきちと体もふるわせた。けれど、洋一の目には、いつかはこうした特訓があることを、覚悟かくごして いるふうがあつた。③だから、ぼくらはけつしてうきぶくろをかえさなかつた。

「洋一。」

「とびこめちゃ。」

ぼくらはどなりちらしてはげました。けれど、洋一は、テラスのへりのところでしゃがんだままだつた。

ぼくらにとって、それを言われると、もう生きていたくなるほど、いやな言葉があつた。それをだれかがさけんだ。「おんな男 っ。」

さけんだのは同じ五年の久志ひさしだつた。

久志は、呉服屋ごふくや「富総とみそう」の一人息子だつた。富総は、町ではもっとも格式かくしきの高い呉服屋で、天神橋通りにあつた。

洋一は細いまゆをしかめた。おとなしい性格だつたが、けつして救いような弱い虫ではない。体の奥のほうに、何か熱いものを持っていた。そのせいか、洋一はいじめられても、仲間はずれにされることはなかった。久志におんな男と言われてまで、しりごみを続けるような洋一ではなかったのだ。おまけに、同じクラスのぼくと泰くんもいるわけだ。テラスでにやにやしている久志をにら みつけると、そのままのするどい目つきで空中にとんだ。アヒルがおぼれかかっているような、まったくぶざまな泳ぎだつたが、洋一はそのまま岸まで泳ぎついた。④岸辺でふりかえり、久志をにらみつけた目の光がよかった。

それが去年のことだつた。

毎年四十川では、いろんな思い出が生まれた。ぼくはそうした一コマ一コマを思いだしながら、川原を歩いた。

(横山充男「光つちよるぜよ! ぼくら」より)

注 * 1 四十川 高知県の西部を流れる一級河川。四国内で最長の川であり、「日本最後の清流」とも呼ばれる。

* 2 日射病 熱中症の一つ。

問一 傍線部①「ただの水の箱だつた。」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 水質がきれいだということ。

イ 水深が浅いということ。

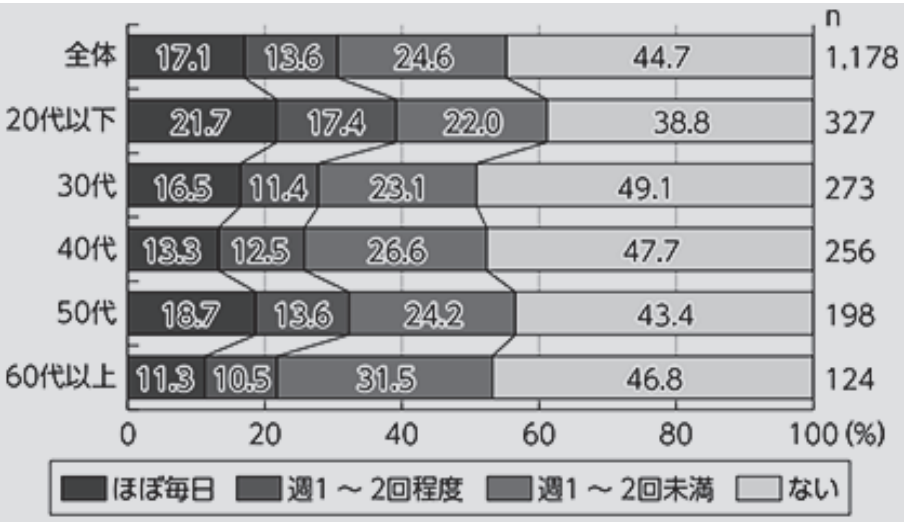
ウ 水量が豊富だということ。

エ 水中の変化がないということ。

オ 水流がなく泳ぎやすいということ。

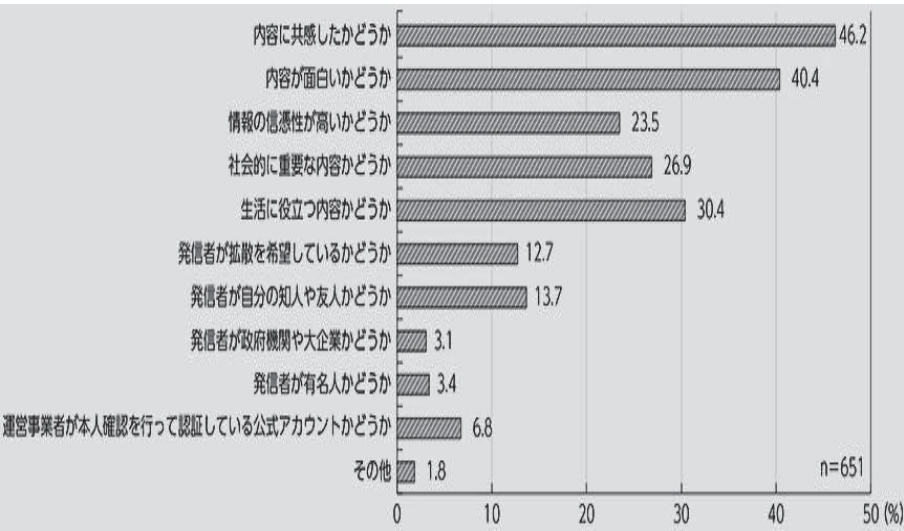
問二 傍線部②「四十川で遊ぶ少年なら、必ず挑戦すべきことがある。」とあるが、それはどのようなことか。挑戦する目的も含めて三十五字以内で答えなさい。

資料（１） SNS での情報拡散経験（年代別）



出典：「社会課題解決のための新たな ICT サービス技術への人々の意識に関する調査研究」（総務省）（https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/h27_06_houkoku.pdf）

資料（２） 情報拡散の基準



「社会課題解決のための新たな ICT サービス技術への人々の意識に関する調査研究」（総務省）（https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/h27_06_houkoku.pdf）を加工して作成

問一 次の資料(1)・(2)は SNS の拡散について総務省が調査した結果である。この資料を見て I・II の問いに答えなさい。

【三】 次の問いに答えなさい

問三 次の文は、空欄 A 〓 D のどこに入るか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ものすごく危険な遊びだったし、精神的にも一度が限界だった。

問四 傍線部③「だから、ぼくらはけっしてうきぶくろをかえさなかった。」とあるが、なぜかえさなかったのか。六十字以内で答えなさい。

問五 傍線部④「岸辺でふりかえり、久志をにらみつけた」とあるが、洋一のどのような気持ちが読み取れるか。三十五字以内で答えなさい。

問六 あなたがこれまで経験した「夏の思い出」について、次の条件に従って百字以内で書きなさい。

〔条件〕 (1)二段落で構成する。各段落の書き出しは「マスあけること。」
(2)一段落目に自分の体験を具体的に書く。
(3)二段落目にその体験からあなたが学んだことを書く。

I 資料(1)から読み取れることとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア SNSでの情報拡散経験者は、ほぼ毎日拡散を行う人が全体の20%以上を占める。
イ SNSでの情報拡散未経験者は、すべての年代で40%以下である。
ウ SNSでの情報拡散経験者は、すべての年代で50%以上である。
エ SNSでの情報拡散経験者は、週1～2回程度が占める割合が最も多い。

II 資料(2)から読み取れる特徴を次の条件をふまえて答えなさい。

「条件」(1)「一方」という言葉を用いること。

(2)六十字以内で答えること。

問二 次の傍線部のカタカナを漢字に、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- | | | |
|------------------------|-------------------------|-----------------------------|
| ① 学級 <u>ニツシ</u> を書く。 | ② <u>キョウド</u> の歴史を調べる。 | ③ 図書館は知識の <u>ホウコ</u> だ。 |
| ④ 仏だんに花を <u>ソナ</u> える。 | ⑤ <u>ソウイ</u> 工夫をこらした作品。 | ⑥ 気持ちを <u>フル</u> い立たせて完走した。 |
| ⑦ 世間の <u>風潮</u> に流される。 | ⑧ 古い <u>慣習</u> に逆らう。 | ⑨ 最近は気温の変化が <u>著</u> しい。 |

問三 次の空欄に漢数字を入れ、慣用句を完成させなさい。

- (①) 里霧中・・・何をすれば良いかわからず、迷っている状態。
(②) 差万別・・・さまざまな違いがあること。
(③) 日千秋・・・非常に長く感じられること。

問四 傍線部Ⅰ・Ⅱに係る文節を抜き出して答えなさい。

① 運動会で／彼は／とても／Ⅰ速く／走って／1位に／なった。

② Ⅱ駅前の、／おいしい／パンを／売っている／お店は、／八時に／開店する。

問五 次の①・②の熟語と同じ構成のものをそれぞれ下から選んで記号で答えなさい。

①	立腹	ア	寒暖	イ	温暖	ウ	収納	エ	閉会	オ	価値
②	激減	ア	独奏	イ	探求	ウ	植樹	エ	取捨	オ	紅白

名前

B[illegible][illegible]

三								
問五	問四	問三	問二		問一			
①	①	①	⑥	①	Ⅱ	Ⅰ		
②		②	⑦	②				
		③		⑧			③	
②		⑨						④

受験番号		名前	
------	--	----	--

[illegible]

二 (4.5点)									
問一	問二	問三	問四	問五	問六				
エ	度胸	D	洋一	悟を	が自				
	を	ト	は	か熟	分を				
	試	ソ	決	しい	馬を				
	す	ネ	し	いの	たと				
	た	を	して	るこ	とい				
	め	く	弱	を持	うし				
	に	ぐ	虫	とこ	得て				
	、	り	で	が分	意い				
	ビ	抜	は	つて	気た				
	ー	け	な	かお	な				
	ヤ	る	く	つり	気志				
	の	こ	、	てい	持ち				
	底	と	体	、特	ち				
	に	。	の	いた	。				
	あ		興	かを	返す				
	る		の	受け	こ				
	水		方	ら。	と				
			に	る					
			、	覚					

[illegible]